

(様式2)

2019 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102481		
法人名	社会福祉法人 からし種の家		
事業所名	高齢者グループホームからし種の家		
所在地	新潟県新潟市西区小針西1-4-22		
自己評価作成日	2020年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2003年(平成15年)に介護保険施設となって15年、その前身から数えると20年が経過しているホームです。住宅地のなかに一般の家庭と同じように建っていて、まさに地域の中で普通に暮らしています。ホームの中に入ってもその造りからして家庭的な雰囲気そのままです。地域の自治会に加入し、回覧板やゴミかごの設置、一斉清掃等地域の一員として協力して行っています。毎年春には笹団子作りを利用者様と一緒にいき、近所にお裾分けするのは恒例となっています。また、地域のコーラスグループの方々や新潟の民謡の語りべなどのお楽しみ会を年に数回催しており、地域の方々も多数参加して頂いて交流を深めています。食事作りに来て頂いているボランティアさんもいらっしゃいます。火災等災害訓練の協力体制についても自治会長様や近所の方々で連絡網のなかに加わって下さり、ホームの避難訓練にも積極的に参加して下さっていて、心強いかぎりです。敬老の日には自治会のお祝いの催しに招待され、いつも気にかけて頂いていることが、入居者職員一同とても嬉しく、感謝しています。当初よりずっとお世話になっている地域の床屋さんは入居されている方々の状態に合わせて散髪して下さることも感謝しているひとつのことです。こうして地域の様々な方々の優しさに包まれて、からし種の家の皆様は日々穏やかに暮らしています。ホームでの暮らしは、全体としてゆるやかにまとまりながらも、一人ひとりの生活リズムを守りながら支援しています。職員は日々の暮らしから小さな気づきを大切にして、よく強調し連携を図り「その人らしさ」を大切にしたいチームケアができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、新潟市西区の住宅街に所在し、キリスト教を愛する法人の代表者が開設した宅老所が前身であり、これまでもその思いが受け継がれている。開設以来、利用者が認知症であっても自分らしく地域の中で暮らし続けることを支援する為に、地域との交流や良好な関係性づくりに取り組んできている。現在は、事業所で開催する演奏会などの行事や、恒例の笹団子作りは地域の中でも年間の催しとして根付いている。この関係性の中で生まれた地域の見守りの中で、利用者は周辺の散歩に出かけたり、自由に暮らすことができている。

事業所は建物の外観をはじめ、花の多い共用空間、明るい居室等も非常に家庭的な造りであり、記念樹で造られた中庭や2階のソファの配置等は、毎日の暮らしの中でも、ホッと癒される場所としての工夫がうかがえる。

食事は毎日職員が献立を考えながら、利用者や食事作りボランティアと一緒に愛情込めて作っており、食事を楽しみにしている利用者には「いつも美味しく食べられる」と自慢の一つになっている。

2019年度途中に管理者の交代があり、管理者はこれまでの振り返りや課題の抽出を現場職員と一緒にいき、利用者のより豊かな暮らしへの支援に向けて、一つひとつ丁寧に事業に取り組んでいるところである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、目にする業務日誌に理念を掲載して全職員で理念の共有が出来ている。その実現に向けて職員会議や日々の申し送りで実践につなげている。	キリスト愛に基づいた一人ひとりの「その人らしい暮らし」を支援することを開設時からの基本理念とし、日々職員はケアの拠り所としている。基本方針をより分かりやすく実践していくために、現在はさらに重点目標と行動計画を定めて具体的に達成度が確認できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に加えて回覧板を回したり、ゴミかごの設置や一斉清掃等協力している。入居者様と地域のお店へ買い物へ行ったり、理容室の利用等、日常的に交流できている。年2回のホームでの催しに地域の演奏クラブを招待したり、防災訓練への参加してもらっている。	開設時から地域との交流に努めており、現在は事業所、利用者ともに地域住民として受け入れられている。事業所で開催する演奏会等の行事には地域住民も多く参加しており、また、毎年住民と一緒に作る笹団子を近隣住民にお裾分けする行事は住民にとっても待ち遠しいイベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的なご近所との交流やホームでの催しに地域の方をお招きしたり、ボランティア、実習生の受け入れ等、外部の方々の協力を受けながら認知症への理解や支援の方法を地域の方々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催し、それぞれの参加者の立場から意見や情報について話し合い、また相談にも応じて頂いている。そして、それらをサービスの向上に活かしている。	先回の外部評価結果を受けて、会議の内容を参加されない家族にも文書で報告する取り組みが実践されている。これまでの会議内容は、主に事業所からの利用者の状況・運営状況の報告、行事連絡等であり、開催日によっては委員の参加が少ない日もあった。	事業所と近隣住民の関係性が築かれてきている中、さらに利用者が地域で暮らすことを支援する為に、より運営推進会議の活用を期待したい。既に委員の見直しを図り第三者委員に委嘱する予定であるが、加えて他の地域密着サービス管理者や民生委員等の参加を得ながら、地域ニーズの把握・協働を見据えた会議となるように取り組んで行くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当窓口担当者とは、業務上、手続き上の相談や指導を仰ぐ等しておりアドバイスを頂いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員である事から、利用者の課題等については随時相談できており、市区担当者からも必要時に相談・助言が得られている。また、法人が運営する他のグループホームで開催する「地区の安全・安心な暮らしを検討する会」には行政職員も参加しており、出席する管理者とも協働体制が作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束について年に2回内部研修を設けグループワークや講義を通じて正しい理解に努めている。身体拘束防止委員会での定期的な話しあいや、毎月の職員会議で思い当たることがないか確認している。	3ヶ月に1回「身体拘束防止委員会」を開催し、研修の企画・開催や、現場職員が自己のケアについて振り返る機会をアンケート形式で設定し、いかなる場合も身体拘束を行わない方針に基づいて実践に取り組んでいる。また、近隣住民の協力を得て、玄関施錠も行わず、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で職員全員が学ぶ機会をもった。毎月の職員会議や日々のケアでも確認している。	身体拘束の研修と同時に虐待防止関連法についても内部研修を行い、何が虐待にあたるのかを全職員が認識している。今年度は「スピーチロック」（言葉による行動抑止）について重点的に事例等を通じて学んでいる。また、職員がストレスを抱えこまないように相談し合える関係性がつくられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度は成年後見人制度を利用している入居者がおり、担当者会議に職員も加わってもらい学ぶ機会が持てた。今年度は成年後見人制度について3月に内部研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居の際には十分時間をとらせてたただいている。ご家族の理解が得られるまで相談にのり対応している。 改定時には文書により同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問や通院時にご家族がいらっしゃった時はご本人の様子をお伝えし、意見や要望等お聴き取りして対応している。 運営推進会議にご家族代表として出席され意見を頂いている。	利用者の意見・要望については寄り添いながら丁寧に聴くことで、本音で話してもらえる関係性が築かれている。家族には面会時や通院時、及び介護計画作成時や電話にて気軽に申し出てほしいことを伝えている。利用者の運動不足の解消のために、事業所内廊下や階段を活用した運動プログラムを決めて取り組んでいる、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。出た内容をもとに皆で検討して運営に反映させている。	代表者は事業所で過ごす事も多く、常に管理者や現場職員の意見、要望、アイデアを吸い上げる努力をしている。また、職員会議の中では積極的な意見交換が行われており、代表者による職員との個別面談も定期的実施している。2019年度は働きやすい環境づくりの為に、待機手当の導入や資格取得に向けた支援等がより強化されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は非常勤者への賞与、国家試験受験への支援、外部研修への参加等職場環境の整備や職員の資質向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はそれぞれの職員に合った内外の研修の機会を設けて受講できるように配慮している。なかには、自主的に介護福祉士の受験対策講座を受講した職員もいた。法人内でも研修を通じて、知識や技術向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームマナの家と一緒に研修や会議を行い、お互いのサービスの質を向上させていく取り組みをしている。なお、外部研修参加時には同業者との交流を積極的に行い、情報を集めサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご本人やご家族と面談し、生活歴や要望に耳を傾け、できるだけこれまでの生活にそった援助ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みの際には見学に来て頂いてご家族が困っていることや不安なことをお聴きしている。入居となった時にもご家族とコミュニケーションを密にして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望やご家族の意向、その他のニーズを見極めて、ホームでできること、できないことを伝えながら、場合によっては他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一人ひとりの力を見極め、掃除や洗濯たたみを手伝って頂いて、ご本人の持てる力を十分に発揮していただけるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がいつでも面会しやすい雰囲気づくりに配慮し、ご家族との時間を大切にしている。また、受診や日用品の購入をご家族にお願いし、共に本人を支えていく関係づくりを築いている。そのほか、クリスマスや福祉バザーへの参加を促し、ご家族と一緒に楽しむ時間を設けている。	家族へは事業所で発行するお便りや法人の機関紙を送付して利用者の暮らしぶりを伝えている。面会時や通院時には家族と利用者がゆっくり過ごせるように声かけや「場」づくりを行っている。家族は利用者の希望に沿って外泊や買い物、事業所行事への参加を行い、職員と一緒に利用者を支えている。入居当初に入浴を嫌がる利用者を自宅ですばらく対応したケースもある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人が訪ねた場合は居室でゆっくり過ごせるように配慮している。また、散歩しながら近所の顔見知りの人にあいさつをしたり、犬に会いに行ったりして、なじみの関係を築いている。	入居前にこれまでの馴染みの暮らし方を把握しており、入居後も会話の中から得られた情報をもとに好きなコーヒーを飲みに行くことなどを支援している。また、入居後の暮らしが長い利用者も多く、近隣の住民や来訪する傾聴ボランティアとも馴染みの関係が築かれている。入居後も家族の協力を得ながら生け花などの趣味活動も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見守りつつ、必要に応じて座席の位置を変えるなどして、人間関係が円滑になるように調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな施設に入居となった方は、情報提供を行いご本人・ご家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話のなかで意向を把握したり、表情や態度から口では表せない気持ちを汲み取る努力をし、それを含め疑問に感じたことを職員間で話しあっている。なお、困難事例については、法人研修で取り上げ、改善に向け取り組んでいる。	担当職員が配置されているが、全職員が利用者一人ひとりに向き合い、日々の暮らしの中での小さな変化やつぶやきにも耳を傾けている。利用者の思いや新たな気づきは、申し送りの時や業務日誌に記載して共有を図っている。言葉での表出が困難な利用者には、表情や行動から読み取るように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に事前面談を行い、これまでの生活歴を利用者・ご家族から聞き取っている。また、これまで利用していたサービス事業所からも情報を得て記録し、職員間で共有している。	入居前に自宅訪問をして、利用者・家族から生活歴や生活習慣について聴取したり、自宅周辺の実地アセスメントを実施し記録している。サービスを利用していた利用者については、居宅のケアマネジャーやサービス事業所からも情報が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりの気づきを大切に、入居者一人ひとりの日々の変化を申し送りや記録、職員間の伝達、職員会議等によって常に情報共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれの担当職員がモニタリングをし、ご家族や他の職員の意見も聴きながら原案を作成している。サービス担当者会議でご家族と話し合い、介護計画につなげている。	事前面接のアセスメントと利用者・家族の暮らしに対する思いをもとに、暫定計画を立て、入居後の状況を確認しながら正式の介護計画を作成している。介護計画は目標達成に向けた支援内容が実施できているかを確認できるものになっている。モニタリングは担当職員を中心に実施し、介護計画の更新や見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やそれに対する対応などをケース記録や職員会議での情報を記入している。介護計画に沿ったケアができていないかを確認してその後の実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない時はホームで通院に付き合うこともある。往診や受診の付き添いサービスや福祉タクシーの利用を勧めることもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域のスーパー、理容室、メイクボランティア等様々な社会資源を活用して安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居以前からのかかりつけ医を継続して頂いている。なお、遠方で受診できないような場合には、近隣の医療機関につなげる支援をしている。	入居時に説明を行い、これまでのかかりつけ医を継続できるように支援している。受診は家族の付き添いを基本としているが、緊急時や医師への説明が必要な際には職員が付き添いを行ったり、看護師が事前に電話等で情報提供している。家族事情等の変化により往診が可能な協力医に変更する利用者もいる。協力医とは夜間も通して連絡が取れる体制にあり、医療面での安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が健康チェックを行っている。いつもと様子が違うときは看護師に伝え異常の早期発見に努めている。また、異常があるときには日中夜間を問わず、看護師に連絡し、助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は医療機関へ情報提供を行なってスムーズに医療を受けられるように支援している。退院前にはご家族や病院関係者とカンファレンスを行い、不安なく退院後の受け入れができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化および看取りの指針について説明している。 状態が悪化した場合は看取りの指針について文章で説明し同意を得ている。ご家族・主治医・看護師と連携を図って支援している。	重度化や終末期の対応については、事業所としての指針が文書に示されており、入居時に利用者・家族に説明している。利用者の状態変化に伴って早めに関係者で話し合いを行い対応してきたが、今後は定期的に利用者・家族との面談で意向の確認を行い、より利用者の思いに添った支援を行いたいと考えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が消防署主催の応急手当講習会を受講して実践力を身に付けている。また、感染症については内部研修を行っている。緊急時のフローチャートを見やすい所に掲示し職員全員に周知している。また、AED等を整備している。	「応急手当」「AEDの操作」「感染症予防・対応」等の研修は定期的実施している。また、看護師による誤嚥や骨折時、状態変化等の対応方法についても事業所内で研修が行われている。ただ、全職員参加で行うことが難しく今後の課題となっている。	2019年度は夜勤を2人体制にすることにより、個別にも対応できる体制が整っている。しかし、開設時からの利用者もおり高齢化が進んでいることや、事故や急変時には早急な対応が求められることから、夜間専任のパート職員にも研修を行い、実践力を身に付けることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施し、そのうち1回は地域の方々の参加・協力を得て消防署の立ち合いのもとで行っている。また、地域の防災訓練にも参加している。自動通報装置に近所の方々の連絡先が登録されており、初期対応の協力体制ができています。また、災害に備え、ふる水を実施している。	前回の外部評価結果を受け、家族へ避難場所を一覧表にまとめて知らせている。各種マニュアルや備蓄品の整備、定期的な防災訓練の実施を行い有事に備えている。防災訓練には地域住民の参加もあり、事業所も地域の自主防災訓練に参加し、協力体制が築かれている。2019年度から、浴槽の水は翌日の入浴前まで溜めておき有事に備える取り組みとした。また、今後は事業所が地域の福祉避難所となる事を発信していく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけの対応を心掛けている。また、職員会議や申し送りの際に話し合う時も「Aさん」と呼びプライバシーを損なわないように配慮している。	2019年度は認知症実務者研修に参加した職員により、「人格の尊重・プライバシー保護」について伝達研修を実施している。また、利用者の生活の背景や利用者本人の希望、家族の気持ちもくみ取りながら一人ひとりに合わせた呼び名や言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら、ご本人の気持ちを汲み取れるように努めている。 その人に応じて、自己決定をしやすい言葉かけ等を務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のできること興味や意欲があるものを職員は見極めながら、家事や炊事、活動と一緒にやっている。また近隣の散歩や買い物など、できる限り要望に沿って柔軟に対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を一緒に選んだり、衣替えを一緒に行ったり、メイクボランティアの方に来て頂いて、化粧をしたりしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を見極めて、下ごしらえ、盛り付けを手伝って頂いている。また、職員と一緒に同じものを食べている。	食事作りには利用者も野菜の下準備、盛り付け、配膳・下膳、片付け等に参加している。メニューは利用者の希望を取り入れて職員が考えたもので、季節の食材を使用したり行事食を取り入れるなど工夫が見られる。食器も家庭的な物を使用し、彩りも良く、食事は和やかな楽しい雰囲気の中で職員も一緒に行われている。外食や手作りのおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて、食事量や形態を工夫し対応している。例えば、風邪で食欲がないときにはお粥食にしたり、本人の好きな水分を用意するなどし、一日の必要量を確保するなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、必要な方へは介助を行っている。 法人内で口腔ケア研修も実施し、必要な知識も身につけた。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、必要な入居者へは排泄のタイミングを見計らい声掛けを行っている。 オムツを使用している方はいない。	利用者は排泄について、年を重ねても入居時の状態をずっと維持できている。排泄チェック表を活用して、時間誘導や声掛けを行い夜間を通じてトイレで排泄ができるように支援している。排泄用品はトイレの棚に個人が特定できないように区別し、カフエカーテンで目隠しするなどの工夫が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	暖かい日はなるべく散歩へ出かけたりようにし、運動量を確保できるようにしている。自家製のヨーグルトを毎日提供し腸内環境をよくし便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	およその時間帯は決まっているが、ご本人の様々な理由で入浴できない場合は、時間を変えたり曜日を変えたりして柔軟に対応している。個人に合わせて温度を調整したり、入浴剤を使用して入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回を予定しているが、利用者のその日の状態に合わせて柔軟に対応している。同性介助を希望する利用者は現在おらず、入浴時は職員とゆっくり話せる時間として利用者は楽しみにしている。また、バラやユズ、菖蒲、入浴剤を使用して入浴を楽しんでもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝夜が遅い方など一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて支援している。就寝前は居室の温度や照明を調整して安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	とくに薬が変わった時などには、薬の説明書を職員に見てもらい、薬効や副作用などの確認を把握してもらっている。いつもの違う体調の変化があった場合は、主治医に伝え、異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃のかかわりの中で、ご本人の持っている力を把握し、調理や洗濯たたみなどを役割をもって頂いている。また、犬が好きな人には散歩しながら、犬と触れ合ったり、歌謡曲が好きな人には、録画した歌謡ショーを見せて、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩へ出かけたり、近くにスーパーと一緒に買い物へ出かけている。なお、家族と一緒に外出したり、自宅でお正月を過ごした入居者もいる。今年度はリニューアルした水族館に、職員体制を整えて、数人ずつほとんどの方が行けるよう対応した。	日常的に事業所周辺の散歩に出かけたり、ゴミ出しや花の水やりを外へ出ている。また、同法人が運営する「マナの家」で開催している「みんなの食堂」に出かけて食事をする事も支援している。家族の協力を得て外出や外泊、買い物に行くこともあるが、職員と一緒にスーパーに買い出しに行ったり、近くのラーメン店やコーヒーを飲みに出かけることもある。外出行事としては季節の果物狩りや水族館に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力、家族と意向も考えて金銭管理の方法を選択できるようにしている。財布を持ち自己管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時はホームの電話を使用できるように支援している。携帯電話を持っている方もいて、ご家族に電話をかけた後、受け取ったりする支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者と一緒で作ったカレンダーや季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう配慮している。温湿度計で暑すぎず、寒すぎないように気を付けている。特に乾燥が強いときには、加湿器だけでなく濡れタオルを掛けるなどをして、加湿に努めている。なお、ひな祭りやハロウィン、クリスマスなどの季節に応じた装飾をほどこしながら、生活感を楽しめる環境づくりに努めている。	玄関初め共用空間はとて家庭的な造りで、リビングには手作りカレンダーやドライフラワー、生花が飾られている。中庭には利用者が選んだ記念樹が多く植えられており、季節を感じることができている。家庭的な造りの中にも、安全性確保のために手すりの設置や適温で過ごせる様に温度調節が行われている。2階に設置したソファはゆっくり外を眺めながら過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるように、座席を工夫している。また、ソファの配置を工夫し、一人になれる空間も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の回りの物は、これまでご本人が使用していた馴染みの物を持ち込んで頂くようお願いしている。昔から使っているダンスや足踏みマシンがあり、それぞれ個性的な部屋になっている。	一人ひとりの希望に合わせた居室づくりを家族の協力を得ながら支援している。使い慣れたベット、テーブルなどの家具や、仏壇、写真、飾り物等の思い出の品が持ち込まれており、一人でゆっくり過ごせる居室となっている。また、足元ライトを設置して安全に過ごせる工夫も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり、トイレを流ししやすいよう不要なボタンは操作できないように工夫している。また、男性がトイレの床を汚さないように、足跡のシールを利用し、清潔に使えるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				